

2022年8月18日

各位

株式会社キノファーマ

岩城製薬株式会社との共同開発・商業化契約の締結に関するお知らせ

株式会社キノファーマ（以下、「当社」といいます。）は、岩城製薬株式会社（以下、「岩城製薬」といいます。）と尋常性疣贅（ゆうぜい）を適応症とした共同開発・商業化契約を締結いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

当社と岩城製薬は、2021年1月より共同で製剤開発を進めてまいりましたが、ターゲットプロファイルを満たす軟膏剤の開発に成功し、その安全性を確認いたしました。今後、尋常性疣贅を適応症として開発を進めるため、新たに共同開発・商業化契約を締結いたしました。この契約により、当社は契約一時金、開発ステージに合わせたマイルストーンならびに商業化後は売上に応じたロイヤルティ等を岩城製薬から受領いたします。

疣贅（ゆうぜい）は、一般に「いぼ」と呼ばれていますが、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によって引き起こされる皮膚の小さな増殖性病変（良性腫瘍）です。HPVは皮膚の小さな傷から入り込み、表皮の基底層にある細胞に感染します。感染細胞は、細胞分裂が活発になり「いぼ」が形成されます。治療法としては、一般的に液体窒素を用いた凍結凝固療法が行われますが、繰り返しの施術が必要であることや治療に伴う痛みなどの課題があります。原因であるHPVに対する抗ウイルス効果を有する承認薬はありません。疣贅は比較的小児に好発しますが、どの年齢層にも発症し、想定有病率は3.4%（2021年日本社会保険診療行為調査データより当社にて推計）です。

岩城製薬の親会社となるアステナHDの医薬事業及びファインケミカル事業では、人々の健康に貢献するとともに製薬業界に資するため、医薬品の研究開発から製造・販売に至るまでのバリューチェーンを広く手掛けております。岩城製薬では、外皮用剤の製剤開発、製造ならびに皮膚科の医薬品を中心とした品揃えで、皮膚疾患にお困りの患者様へソリューションを提供しております。

当社は、宿主因子をターゲットとしウイルスの増殖を抑制する新しいコンセプトの抗ウイルス薬開発に取り組んでいます。リードプログラムは、子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス（HPV）感染症を適応症としており、現在、フェーズIIにあります。また、尋常性疣贅や尖圭コンジローマといった、HPV感染を起因とする各種疾患に対し治療薬を開発していることに加え、致死性ウイルス感染症や次世代パンデミック・ウイルス感染症への治療薬開発にも取り組んでいます。本提携により、当社の新しいコンセプトの抗ウイルス薬の研究・開発がさらに加速、発展につながるものと考えております。

相手先の概要

(1) 名称	岩城製薬株式会社
(2) 所在地	東京都中央区日本橋本町4丁目8番2号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 西久保 吉行
(4) 事業内容	医療用医薬品ならびに一般用医薬品の研究開発・製造・販売
(5) 設立年月日	1948年9月24日
(6) 会社ホームページ	https://www.iwakiseiyaku.co.jp/
(7) 大株主及び持株比率	アステナホールディングス株式会社 (100%)

【お問い合わせ先】

担当部門：経営管理部

E-mail：info@kinopharma.com

HP：https://www.kinopharma.com/

以上